

国際交流員の
活動日誌

vol.53



Information

市政だより英語ダイ
ジェスト版を市役所、総
合支所、保原駅、梁川
駅等で配布しています。

「家庭祭壇」 Home Altars

お盆にお墓参りをする日本人は多いと思います。自分は祖父のお墓は父方と母方それぞれ一回しか行った事がなく、それも葬式当日でした。葬式以来行かない事は欧米では珍しくも失敬でもないのです。日本では亡くなった家族を身近にいるように大切にしているので、仏壇が大事だと思います。日本の仏壇を見ると、その家族が代々この国に住んでいると分かって外国人として感動します。しかし最も感動したのは、キリスト

信者の日本人家族の家で家庭祭壇を見た時です。外見は仏壇と同じでしたが、中に十字架とマリア像とご先祖の写真がありました。外国にはない、日本特有のキリスト教文化です。

もし日本で家族ができれば、家庭祭壇が必要だと思えました。伊達市に引っ越してきた後、知り合いから使われていなかった家庭祭壇を頂きました。偶然にも亡祖父の誕生日で、すぐに写真を中に置きました。祖父は最初、僕の来日に反対していましたが、最後は応援してくれました。亡くなる直前、日本に戻る僕への最後の言葉は「続けなさい」でした。家庭祭壇を見ると先祖は今も応援してくれていると思ひ出し、頑張ることが出来ます。皆さんもこのお盆の機会に、どこにいても、応援してくれる家族に感謝を伝えましょう。

地域の魅力
ふる里再発見

養蚕技術を普及させた偉人

～渡邊源兵衛④～

企画展

渡邊源兵衛と養蚕

7/25⑩まで開催
保原歴史文化資料館

明治時代の日本では、全国的に養蚕業が大変盛んとなりました。輸出品の中で生糸・蚕種が占める割合は全体の45%にもおぼり、外貨獲得の花形商品でもありました。

日本の養蚕に貢献してきた渡邊源兵衛をこれまで紹介してきましたが、その偉業を後世に伝えようと、明治21年（1888年）、彼に教えを受けた門弟たち数百人が集まり「渡邊源兵衛翁功德碑」を建碑しました。

この建碑に関して新たな資料が発見されました。資料①『養蚕家渡邊源兵衛翁履歴』(控)という冊子で、源兵衛翁の履歴・活動の様子がまとめられています。

この資料には、福島県知事から褒章を受けたことが書かれており、渡邊源兵衛の名は、知事まで知られていたこと



資料① 養蚕家渡邊源兵衛翁履歴 (一条家文書)

つまり、日本の養蚕の発展にはこの伊達地方が大きな役割を果たしてきたといえるでしょう。

がわかります。当時の福島県知事は折田平内^{おりたへいない}で、内閣総理大臣黒田清隆と密接な関係のある人物です。渡邊源兵衛翁功德碑の篆額^{せんご}は黒田による書ですが、これは知事の依頼によるものだったかもしれません。また、この資料①の文章の一部が碑文の中に使われており、最後に建碑に尽力した門弟たちの名前が記載されています。名前が確認されるのは赤井半七・深谷角左衛門・安永惣兵衛・安永多年・樋口藤四郎・幕田吉之助・三瓶嘉内・三瓶長治郎などです。いずれも保原・上保原村などに居住した養蚕家で、全国に養蚕教師として派遣されています。

※ 1…現在は公開されていません。 ※ 2 篆額 (てんがく) …石碑などの上部に篆書で書かれた題字。